

テーマ：子供の体験活動 対象：小学校4年生～中学生 主催：こどもがつくるまち実行委員会

H-⑧こどもがつくるまち@くしど

地域を学ぶ		地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	--	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開（令和3年度）

日程	場所	学習・活動内容
7月17日（土） 10:00～13:00	串戸市民センター	○「こどもがつくるまち@くしど」立ち上げワークショップ 子供と大人と一緒に、「こどもがつくるまち」を楽しむための役割や工夫について話し合う。
7月26日（月） 10:00～11:30 8月11日（水） （令和3年度開催中止）		○こども会議 子供たちが主体となり、どんなまちにしたいかを話し合う。 ※市長の立候補者の受付をする。
9月18日（土） 10:00～12:00	串戸市民センター +自宅（Zoom 開催）	○お金についてもっと知ろう！ 「こども店長」になるために、まちやお金の仕組みについて知る。 変更 市長選挙・オンラインでできることを考えよう！ 子供たちにオンライン開催が決定したことを周知し、役割分担等を行う。また、Zoomの機能を活用し、市長選挙を行う。
9月25日（土） 10:00～12:00		○お店のアイデアを出しあってお店のプランを作ってみよう！ 各々で考えてきたアイデアを出し合い、事業計画書を作成する。 変更 お店のアイデアを出しあってお店のプランを作ってみよう！ オンライン開催になるため、事業計画書は作成しなかったが、アイデアを出し合い、当日の配信スケジュールを決定した。
9月26日（日） 10:00～12:00		○お店の準備をしよう！ 物品等の準備を行う。 （オンライン開催に向けて、打合せを綿密に行う。）
10月2日（土） 10:00～13:00		○「こどもがつくるまち@くしど」の準備をしよう！ お店の準備を行う。 （オンライン配信のために各グループでイベントのリハーサル等を行う。）
10月3日（日） 10:00～15:00	串戸市民センター	○「こどもがつくるまち@くしど」に参加しよう！ お店の運営を行う。 （オンライン配信（Zoom, YouTube））
10月9日（土） 10:00～12:00		○ふりかえりをしよう！ 「こどもがつくるまち@くしど」について振り返りを行う。



対象	小学校4年生～中学生
経費	参加費500円、こども夢基金10万円 串戸市民センター事業費
連携先	広島修道大学（地域つながるプロジェクト2021） FMはつかいち

問合せ先	廿日市市串戸市民センター 〒738-0033 廿日市市串戸二丁目13番13号 電話：0829-32-2096 ファクシミリ：0829-32-2147
------	--

2 講座設定の理由（学習の目的）

- 「まちのみんなを笑顔にする！」というテーマに基づき、子供たちが主役となって自ら企画し実践する活動の場所を提供する。その活動の中で社会の仕組みや社会への参画について学び、自主性、協調性、創造性等を育成する。また、参加した子供たちが、地域へ愛着を持ち、より豊かな地域にしていこうという機運を醸成する。さらに、その活動に参加した大人にとっても「大人の学びの場」として活動の場を提供するとともに多世代間の交流も図る。

3 学習目標

- 子供たちが地域のことを知り、社会やお金の仕組みについて理解することができる。
- 多世代間における交流を通して、子供たちの自己肯定感を育むことにより、自分の考えや意見を表現することができる。
- 子供たちが地域のことを考え、活動に主体的に取り組み、地域への愛着心を醸成する。

4 事前に必要な知識や準備物

- Zoom や YouTube の仕組みを理解し、使用方法を習得する。
- オンライン講座の実施に向けた著作権等の知識を習得する。
- 当日のみ参加する大人（大学生）もいる中で運営を行うため、スタッフの配置等を綿密に考える。
- 子供たちの ICT 環境に応じて、インフラ整備や会場準備等を行い、全員が参加できるように工夫する。
- 柔軟に子供たちのアイデアに対応できるよう、必要な物品等を準備する。

5 留意点

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、従来行っていた対面での食品の販売を中止するなど柔軟に十分な対策を講じる。
- 子供たちが主体的に参加できるよう、それぞれの意見や行動を尊重し、大人の立場で関わるスタッフは補助に徹する。
- 子供たちが「まちに必要なもの」、「やりたい仕事」、「みんなが楽しめるまちにするにはどうするか」等について意欲的に考えることができるように支援する。
- 主体的に活動できるようなコミュニケーションのとり方等について、大人（大学生）や子供たちが自ら考えることができるよう支援する。

6 成果

- お金の流れを通じて、社会の仕組みを理解することができた。
- 急遽、対面集合型からオンライン型の開催になったが、保護者の協力のもと、子供たちは柔軟に対応し、主体的に活動へ参加することができた。
- 多世代間での交流を通して、お互いが自分の考えや意見を交流することができた。
- 子供たちが交流を通して、お互いから学び合う姿が見られた。また、運営者側にとっても貴重な学びの場となった。
- 地域のことを自分事として考える機会を通して、地域への愛着心を醸成することができた。
- 子供たちが Zoom の機能を活用できるようになった。

7 課題

- 急遽、オンライン開催になり、試行錯誤のしながら当日を迎えたため、広報活動を十分行うことができなかった。

8 今後に向けて

- 新しい時代の学びの在り方を考慮し、対面・集合型とオンライン型を併用したハイブリッド型で開催できるように検討する。
- 可能な限り子供たちの要望を考慮し、作成した商品のイベント内での販売を検討していく。